

3教科A方式 英語

A方式は従来と同じく大問3題が出題されました。前年に続き、2題は論説文で、1題は会話文が出題されています。文章の長さや設問の数・種類・難易度は例年とあまり変わっていません。ある程度長い文章を読んで筆者の主張をしっかりと理解し、それを自分のことばで説明できる力が必要とされます。受験生の皆さんには、日ごろから学校の勉強を中心として読解力、作文力、語彙力、文法力などをバランスよく身につけておくことを期待します。

I.

【解答】

問1. (1) ④ (2) ① (3) ② (4) ③

問2. (a) ③ (b) ① (c) ② (d) ③

問3. [A] ④ [B] ①

問4. ③

問5. They develop it before the age of five.

問6. princesses

問7. ③

問8. ④

【講評】

子どもの物の見方や文化・社会に関する認識が、物語によって形成されることを論じた文章です。問1から問3までは、空所補充や語句の意味を問うもので、確実に得点したい問題です。この中で make a difference 「重要である」の意味がいちばん低い正答率でした。問5と問6は記述式ですが、文章中に割合容易に答を見つけることができる問題で、まずまずの出来でした。問4、問7、問8は内容理解の問題で、この中では問7が難しかったようです。問7は最後の文の解釈に関わる設問で、正確な読解力が問われます。問8は文章全体の趣旨に関わる問題で、比較的よくできていました。

II.

【解答】

問1. ア ② イ ② ウ ② エ ②

問2. (1) ② (2) ④ (3) ④ (4) ④ (5) ①

問3. 1. ④ 2. ② 3. ④ 4. ④

【講評】

近年、大問の一つとしてこのような会話文を出題しています。日本とオランダのコミュニケーションスタイルの差が話題となっている文章です。語句の意味を問う問2の(2)(3)は正答率が低かったですが、内容を問う問3の2. 3. 4. 中でも最後の4. はよくできていました。比較的平易な英語でなじみやすい内容でもあり、本文全体の趣旨はかなりわかりやすかったようです。

III.

【解答】

問1. (A) exclude (B) attainment (C) loss (D) deepen (E) excess (F) strength

問2. (1) ① (2) ② (3) ② (4) ① (5) ① (6) ② (7) ②

問3. 私が成長する過程で祖父母が周りにいてくれたために、私は年長者のことをより意識するようになった

問4. ③

問5. 下記の講評参照

【講評】

人々が年配者と関わることの意味について述べた文章です。問1は派生語の問題で、毎年出題されていますがそれほど出来がよくありませんでした。普段から単語を関連語とともに記憶するようにしてほしいと思います。問2はそれぞれの文が本文の内容と一致するかどうかを判断する頻出の問題で、(7)以外はかなりよくできていました。文章の主題を問う問4の正答率も高く、文章全体の意味をとることは容易だったようです。問3の和訳は出来の良い人と悪い人が大きく分かれ、差がつく問題でした。地道な勉強を積み重ねてきた人は、ここでその成果がはっきり出ると思います。問5は毎年出題されている自由英作文で、やはり差がつく問題ですが、今回は比較的書きやすいテーマだったと思います。日ごろから自分の考えを英語でまとめる練習をしておきましょう。